



5月7日(木)「令和8年度第1回学校運営協議会(CS・コミュニティスクール)」が開催されました。

令和8年5月18日発行  
新潟市立笹口小学校  
CS事務員

## 学校運営協議会について(新潟市教育委員会)

学校運営協議会は、学校運営や、子どもに必要な支援に関する協議をする合議体です。

学校運営協議会委員の皆様には、対等な立場で自分事として協議に参加し、学校運営に参画することが求められます。ここでの協議をしっかりと行い、地域と学校が協力してパートナーシップ事業へと繋げることが大切です。

コミュニティスクール(学校運営協議会制度を導入した学校)とパートナーシップ事業を連動させることで、学校の支援だけでなく、地域の課題も一緒に解決できるようになると理想的な協働に繋がります。

## 今回の会議は・・・

### 《1》 校内授業参観

各階ごとに授業の説明を受け、グラウンドでの活動や図書的时间など、多彩な活動もあわせてご覧いただきました。

### 《2》 自己紹介

### 《3》 学校運営協議会について

新潟市教育委員会資料により、会議の有効活用について説明いたしました。

### 《4》 学校の取り組み説明

### 《5》 意見交換

#### 《4》 学校の取り組み説明

【教育目標】磨く 磨き合う

〈目指す学校の姿〉笑顔と個性輝く みんなが行きたくなる学校

〈子どもに育みたい資質・能力〉

○可能性を伸ばす力…自分の可能性や良さを伸ばす力(自己肯定感)

○尊重し合う力…互いの良さや持ち味を認め合い、支え合い、高め合う力(共感性)

○挑戦する力…しなやかに粘り強く取り組む力(レジリエンス)

## 《5》意見交換

今年度第1回の会議にあたり、「笹口の子どもの現状と課題」について意見交換が行われました。

近年目まぐるしく発展し、恵まれた環境である笹口地区で、子どもたちはとても落ち着いて生活しています。その一方で、忙しさの中で自分を見つめる時間が確保できないことや、子ども同士の関係性等においてある種の「見えにくさ」が出てきているのではないかという問題提起がありました。これをもとに、笹口の子どもの現状や、地域から見た子どもの姿について、様々なご意見が交わされました。その一部をご紹介します。

11月開催予定の笹口コミ協主催の**防災訓練**を、子どもたちと一緒にやりたい。地域との連携、つながりを作るツールとして有効ではないか。

親同士のコミュニティがなく、悩みを抱えている保護者がいる。

大切にされすぎているためか、「自分は何をやっても許される」という考えをもつ子がいるように思える。

新潟こども保育カレッジの学生で低学年**読み聞かせ**の活動に1年生から卒業まで毎年参加している学生がいる。笹口の子どものかかわりを楽しんでいるようだ。

学校にはいろいろな人がいる。**交流**することで発見がある。

子どもたちは**ほっとハウス**でのびのびと遊んでいる。一方、親や先生の言うことは聞くけれど、コーディネーターの言うことは聞かないという子がいるようだ。

周囲とのかかわりがある人とない人、二極化が進んでいるのでは？



子どもの数が少なく、コミュニティが狭くならないか心配。**光のページントの出前授業**では、普段先生がしないような話を、大人の会議と同じ気持ちで話している。

個の時代と言われているが、若い人は**交流**を求めている。子どもと大人、日常的なかわりがとても大切だ。

昔は周囲にかっこいい大人がいて、子どもは自然と「大人になる」ということのビジョンが描けていた。今の子どもはそれ以前に、自分に自信を持っていないように感じる。

子どもたちには、自分の強みや弱さを受け止め、挑戦する力をつけてほしいと願っています。たとえ失敗しても、やり直せばいいのです。そうすることで真の強さが身に付きます。

しかしやり直すには、安心できる「**居場所**」が必要です。居場所とは、学校、家庭、そして地域でつくるものです。子どもたちにとってこの笹口地区がより良い「居場所」となるように、具体的に何ができるか、今後も話し合いを深めていきます。